

港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

第 21 号

TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561 E-mail info@kouhoku-saibora.net

2014 年 6 月

HP <http://www.kouhoku-saibora.net>

入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるにお力を貸して下さい。

2014 年度（平成 26 年度）総会 新方針決定

5 月 26 日（水）港北区福祉保健活動拠点多目的研修室において、区役所災害担当の萩生田さん、ボランティア担当の丸山さん、区社協事務局長の池田さんや会員 15 名の出席で 2014 年度の総会が開かれました。白井副会長を議長に選出し議事を進行しました。

井上会長より

平成 25 年度は皆様方のご協力・ご理解のおかげをもちまして、無事に過ごすことができました。前年度には個人会員が多く加入しました。そのために会も活発になったように見受けられます。また、視察見学に液状化がおこった浦安にも行ってまいりました。

この視察見学には今まであまり災害連絡会に参加していなかった方も出席してくださいました。それぞれのタスクにおいても、活動が活発になりいろいろの行事に活躍してくださいました。

挨拶の後、25 年度事業報告・決算報告を審議の上、全員の承認を得ました。続いて今年度の活動方針、事業計画が論議され、承認されました。

2014 年度（平成 26 年度）活動方針

阪神淡路大震災は、一瞬のうちに多くの建物を損壊させると共に 6000 余人の生命を奪いました。震災後、全国から多くのボランティアが馳せ、熱心な支援活動を行いました。しかし、ボランティアは駆け込んだ団体の指示の不明確さ故に、望むような活動を行えず、空しく現地で待機していた場面もありました。

こうした教訓から、いつくるかわからない災害に備えて市民・ボランティア団体・行政等が協力してお互いに助け合える、平時の関係づくりが必要であると考え、顔の見える関係、ネットワークを作っておくことが必要になりました。

1998 年に港北区災害ボランティア連絡会が発足。以後、段階的に活動メンバーを増やしなが、コーディネーターハンドブックの作成、災害ボランティアセミナーの開催、災害ボランティアコーディネーターシミュレーション事業などを行ってまいりました。

これからもコーディネーターを育成すべく、様々な事業を展開していきます。東日本大震災で現場活動をしたボランティアや、危機感を持った事業所が加入するなどの動きもあるものの、まだまだ会員数の伸び悩み、活動内容の固定化など様々な壁に直面しています。それをのりこえるためにも、まだ復興の姿が見えない東北の被災地に対して会員が進めている東北各地への支援を会全体で受け止め、会の力にしていきます。その中、横浜市では市防災計画の見直しを行い、災害時のボランティア活動に対する協力関係が明確化されました。今年は行政と協定書を交わし、センター運営時の確認をしていきたいと思ひます。また、多くの会員を増やすために賛助会員制度を作っていきたいと思ひております。一つひとつの行事、会議を大切にして、誰でも分かる・納得する会にしてゆきたいと思ひております。

2014 年度港北区災害ボランティア連絡会の活動目的

1. 港北区災害ボランティアを多くの人にアピールして、理解してもらう
2. 災害時の災害ボランティアセンターの運営能力を高め、いざというときに備える
3. 地域の防災力の向上に努める
4. 防災講座を開催し、多くの方の参加を呼びかける
5. 会員の増加を図るために、試みに夜の定例会を一回開催する

各タスク事業計画

①PRタスク

【活動方針】

- ・ 港北区災害ボランティア連絡会の認知度を上げる
- ・ 災害の具体的なイメージを分かりやすく伝える

【活動】

- ・ 区内各地の行事において広報活動を行う
- ・ 広報用パネルを改訂し地名を入れて見やすくする
- ・ 地域防災拠点との連携を図る

②シミュレーション・ハンドブックタスク

【活動方針】

- ・ 昨年度のシミュレーションの経験をもとに、受付・登録、送り出し、フォローの各担当のハンドブック改定を進める
- ・ 昨年度できなかった本部、情報担当のシミュレーションの実施を目標として、区役所担当者と打ち合わせをしていく

【活動】

- ・ 災害ボランティアセンター運営シミュレーションの開催
- ・ 災害ボランティアコーディネーターハンドブックの改訂

③イベントタスク

【年間方針】

- ・ PR活動だけではなく、災ボラの説明と実地活動を目的として防災拠点訓練に参加する
- ・ 昨年と同様被災地の状況を実際に見る

【活動】

- ・ 災害ボランティアセミナーの開催
- ・ 施設見学の実施

④広報

【年間方針】

- ・ ニュースの発行
- ・ ホームページの充実と活用

【活動】

- ・ 地域活動を積極的に掲載する。そのための情報収集をする。
- ・ ニュースの毎月発行を確保する

平成26年度総会・定例会報告

出席者：井上会長（港北区ボラ連）、白井副会長（個人）、国際救急法研究所、富士塚ボランティアグループ、手話サークル梅の会、港北区ボラ連、港北国際交流ラウンジ、子育て支援拠点どろっぷ、一般社団法人ペガサス、仲手原マザークラブ、個人会員5名、萩生田・丸山（区

役所）、池田事務局長、山本、松本（区社協）
合計 20名

司会＝白井副会長 記録＝和田、鈴木

○役員

会長＝井上禮子 副会長＝白井保、池田誠司
会計＝付岡博子、小澤美津子 書記＝和田恵美子、鈴木恵子 監査＝生井知三、広報＝山本正史、宇田川規夫

第二回定例会

＊横浜市災害ボランティアネットワーク定例会は月1回開催。災ボラ代表として白井副会長と宇田川さんが参加

市ネット総会 6月25日（水）17時30分から健康福祉会館にて開催

白井さん、宇田川さん、付岡さん参加予定

＊Dブロック会議（青葉区、緑区、都筑区、港北区）6月15日（日）井上会長、宇田川さん、小澤さん・事務局、参加予定

＊箕輪町内会防災拠点と一緒にプロジェクトを組む

宇田川さん筆頭にPRタスク（古川さん）、シミュレーションタスク（山本さん）イベントタスク（小澤さん、山口さん）参加予定

●PRタスク

第1回目のPR活動はらくらく市（菊名地区センターにて開催）に参加

●その他

失語症について学ぶ研修会横浜ラポール 6月7日（土）13:30～15:30（室伏さんより）

あなたの家は大丈夫？

盛土造成地に滑動崩落の危険！

港北区を含む横浜市は起伏に富んだ地形です。お隣の都筑区に作られた港北ニュータウンは丘陵地を切り開いて作られた街です。区内にも山を崩し、埋めて作られている小さな宅造地は多数あります。

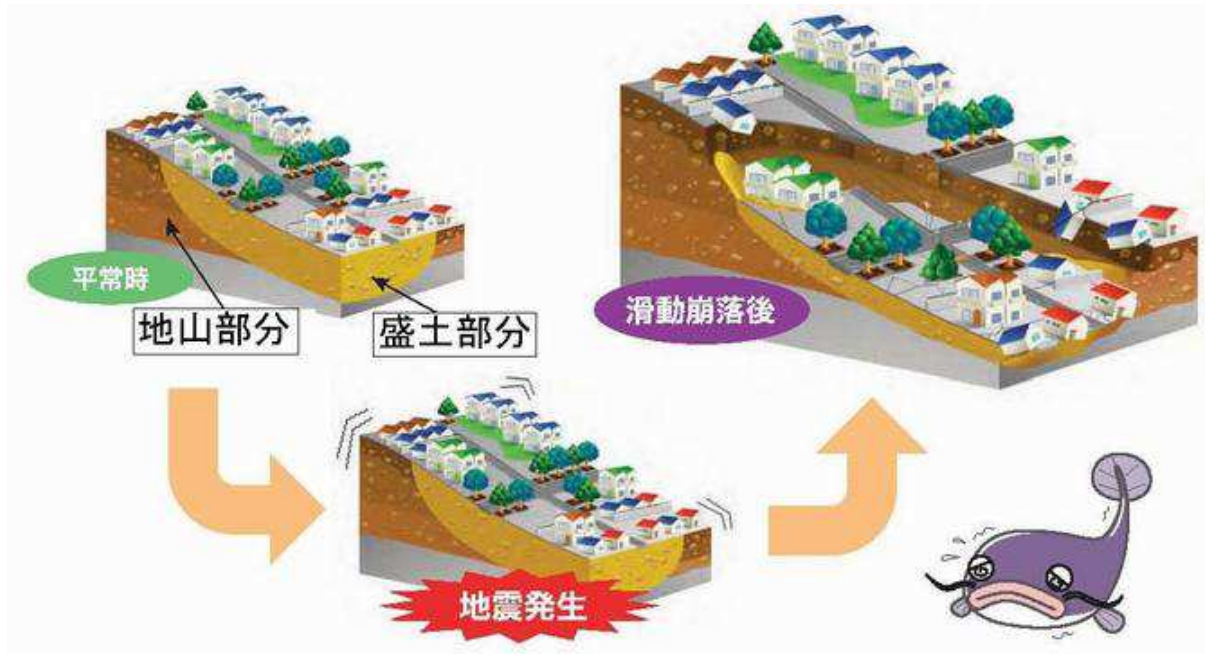
阪神・淡路大震災や東日本大震災では、谷や沢を埋めたり、傾斜地に盛土した大規模な造成宅地で、崖崩れや土砂の流出といった被害が発生しました。これは滑動崩落といって地震によって盛土が地山の上を滑り落ちたためです。1970年以前に造成された宅地で多くの被害が発生しています。既存の造成宅地については、大規模盛土造成地の有無とそれらの安全性の確認（変動予測調査）、危険性が高い箇所の滑動崩落防止工事などの予防対策を早急に進める必要があります。

国土交通省は滑動崩落対策の流れと全国の自治体での滑動崩落対策の進捗状況を公表しました。
http://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_tobou_fr_000004.html

横浜市では、第1ステップとして平成18年度から21年度にかけて、新旧の地形図を重ね合わせて標高の変化を調べる方法により大規模盛土造成

地を抽出し地図で公表しています。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenchiku/takuchi/takuchikikaku/news/morido/>第2ステップとしては各造成地の活動崩落の危険性の判定、第3ステップとしては危険箇所での活動崩落防止対策工事が必要ですが、現時点で横浜市では2以降の実施予定は立てられていません。



港北区では盛土造成地は、高田町、高田西、高田東、下田町、日吉本町、日吉、新吉田、新羽、大曾根台、大曾根、小机町、岸根町、篠原町、菊名に存在します。

あなたの住まいが盛土造成地にあるかどうかは上記地図で確認するか、はっきりしない場合は、横浜市建築局宅地審査部宅地審査課宅地企画担当 TEL671-2946 に問合わせてみましょう。

持っていて良かった便利グッズ

炊飯袋

水も電気もガスも止まって、お腹がすいてきた。大人はなんとか我慢できても子どもを我慢させるのは忍びないですね。しかも大都会横浜では災害時避難拠点などに備蓄している食料などはあつという間に足りなくなります。これこそ自助を最大発揮しなければならないもの。そんなとき鍋釜無くともご飯が炊けたらなあ。それをかなえてくれるのが炊飯袋です。

左の袋はハイゼックス製で高温に耐える素材のため、煮炊きに適しています。米と水を目盛りに合わせて入れたら口を付属の輪ゴムでしっかり結び熱湯の中に入れるだけです。水が十分無い場合は気分的には嬉しくないけれど、

自宅が盛土造成地の上にあつて、滑動崩落の可能性がある場合は、万一に備えて地震保険に加入しましょう。個人でできる滑動崩落防止工事もありますので専門家に相談しましょう。

横浜市ではがけ地の予防対策工事に対し助成を行っています。建築局建築防災課TEL671-2948に問い合わせてみましょう。

熱湯は飲用に出来ないレベルでも大丈夫です。またこの袋ではおかずも作ることが可能ですし、水が少なければビールやジュースでの炊飯でもかまいません。ちょっと変わった味を楽し



めそうですね。

右の袋は米を研がないで袋に入れ、きれいな

熱湯の中で湯炊きするもの。こちらは袋も熱湯も3回は繰り返し使えるそうです。

どちらも家庭で揃えたい物ですが、その際は、ガス、コンロ、鍋、水をセットにして分かりやすく、出しやすい場所に置いておくのが大事ですね。それともっと大事なものは買ったら使ってみる事です。ネット購入者の感想の多くに、「まだ使っていません」とありますが、災害用グッズは買うだけでなく、使い勝手を確認しなければ無意味です。日曜日などお子さんと一緒にキャンプ気分でお昼を作ってみてはいかがでしょうか。

エアーマット

日本の避難所の最悪な点は床に直に寝ていることです。毛布しか配られない寒い体育館で寝ることがどれだけ辛いことか、また不衛生であるか、行政はもっと真剣に解決策を考えるべきです。



このマットは床に寝る点では変わりませんが、下から来る冷えを防ぐ点で、またクッション性が有る点、しかもかさばらない点で優れものと言えます。専用の空気入れを使うタイプと、自転車の空気入れで可能な物、ストローでも入れられる物、色々あります。値段もいろいろ。20組セットで3万円ちょっとから、一枚9000円ぐらいと巾があります。枕付き、枕別売とここも値段の差が出るところです。

家庭内で避難生活する場合は不要ですが、職場や公共機関などは帰宅困難者対策として備えておきたいグッズです。

また避難所の望ましい形としては、最低限でも高齢者には簡易ベッドか段ボールベッドを提供する方向にしたいものです。段ボール箱を使つての簡易ベッドは簡単に作れますから、地域の防災訓練で実践してみるのも大事だと思います。その際は作ったら必ず寝てみて使い心地や移動の感じを確かめることが大切です。

東日本大震災第3回石巻かほく復興写真展

石巻地方で震災から立ち上がる人々や町の様子を写した公募写真展です。

会場：横浜みなと博物館特別展示室（日本丸隣）

会期：6月7日（土）～6月15日（日）

午前10時～午後5時 休館日6月9日（月）

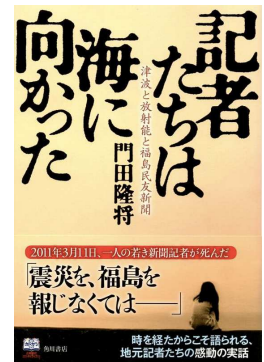
入場無料

読んで役立つ災害本

記者たちは海に向かった

門田隆将 角川書店

本書は東日本大震災の時に福島県浜通りでなにが起きたか、その時福島民友新聞の記者たちがどのように行動したかを詳細に記録したドキュメントです。



記者たちは地元の様子を取材するために津波が迫る海に向かいました。そこで大自然の猛威の前に葛藤にさらされます。自らの命を守るか、記者としての使命を全うするか、津波に襲われた住民に救いの手を差し伸べるか。一人の記者は住民を助けるために津波に飲まれました。そして本社では電気、電話などインフラが途絶した状況で、いかにして新聞を発行するか必死の努力がなされていました。電話もメールも使えない中必死で記事や写真を集め、ランプの明かりで紙面を構成し、自家発電を動かして印刷し、土砂崩れや地割れの道をトラックで配送しました。自身も被災された配達員がガレキの街をバイクで配達しました。こうして3月12日の朝刊は読者のもとに届けられたのです。

さらに原子力発電所の事故による放射能の恐怖が襲います。家族のために避難するか踏みとどまるか。

あの日から3年2ヶ月が経ちましたが、あの時の記憶を風化させてはなりません。我々ひとりひとりが心に刻んで未来に生かしましょう。（山本）

* 災害時の地元新聞社の奮闘は「河北新報のいちばん長い日-震災下の地元紙-」（文春文庫）でも知る事が出来ます。

編集後記

- ☆ 5月には地震、そしていよいよ梅雨、災害への敏感なアンテナを持ちましょう。（宇）
- ☆ 長雨の季節です。家の周りに斜面やよう壁があるなら異常がないか点検しましょう。（山本）
- ☆ 会社で防災隊長に選ばれました。一般市民への防災・減災の啓蒙活動、災ボラの存在意義を訴えて行こうと思います。（野）
- ☆ 真夏日！そしていきなり大雨！手紙を書こうにも季語や時候の挨拶がピンとこないことが多いです。（山口）